

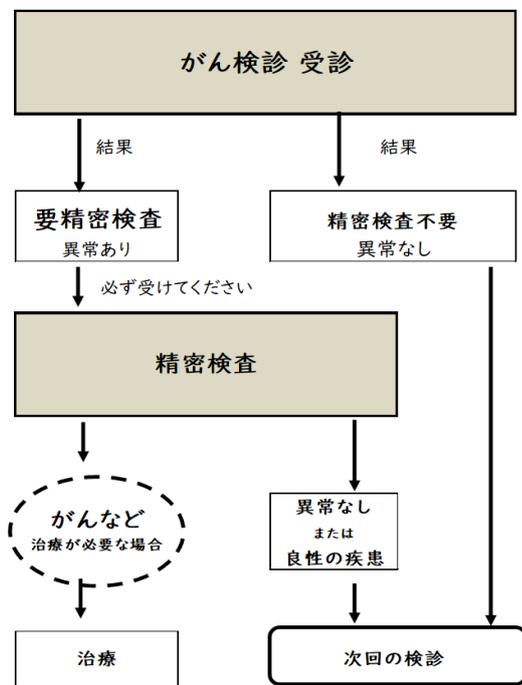
# がん検診について

- 肺がん・大腸がん・胃がんはがんの死亡原因の上位に位置しています。また、乳がんは女性におけるがん死亡原因の上位に位置しており、子宮頸がんの罹患は比較的多く、20-30歳代で近年増加傾向にあります。
- 自治体で推奨している胃がん検診・肺がん検診・大腸がん検診・子宮頸がん検診・乳がん検診は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。
- すべての検診にはメリットとデメリットがあります。がん検診を正しく理解し、早期発見、治療で大切な命を守るために、定期的に検診を受診し、「異常あり」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。
- 胃がん・子宮頸がん・乳がん検診は、2年に1度、定期的に受けてください。推奨している受診年齢や受診間隔を守らないと、検診の「デメリット」が大きくなってしまいます。
- がんであっても症状が出ないことはよくあります。「症状がないから大丈夫」などと自己判断せず、必ず精密検査を受けてください。



◆ がん検診対象者 ◆ 4月1日現在の年齢		
肺・大腸がん検診	40歳以上の男女	
胃がん検診	40歳以上の男女	(偶数年齢の者)
乳がん検診	40歳以上の女性	
子宮頸がん検診	20歳～28歳の女性	(30・35・40・45・50・55・60) ※令和7・8年度は、経過措置として31歳以上で希望する人にもHPV単独法を受けていただけます。
	30歳～60歳の女性	

## がん検診の流れ



## がん検診のメリット・デメリット

### メリット

- 検診を受けることでがんによる死亡リスクが減少します。
- がん以外の病気をみつけることができ、治療に結びつけることができます。
- がん検診を受けて「異常なし」と判定されれば、ひとまず安心を得られます。

### デメリット

- 検診では、すべてのがんが見つかるわけではありません。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもあります。
- 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために、不要な治療を受けなければならない場合もあります。

日本人の2人に1人はがんにかかっています。定期的な受診を行い、自覚症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。\*

※ がん検診を待たずに医療機関を受診するべき自覚症状とは

胃がん検診	胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなど
肺がん検診	血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなど
大腸がん検診	血便、腹痛、便の性状や回数の変化など
子宮頸がん検診	月経(生理)以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則など
乳がん検診	しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなど

精密検査の結果は市へと報告されます。

また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

# がん検診と精密検査について

## 胃がん検診(2年に1回)

### <検診の方法>

- ・X線検査  
発泡剤とバリウムを飲み胃の中の粘膜を観察する検査です。
- ・内視鏡検査(40・50・60歳のみ)  
先端にカメラを内蔵した直径約1cmの細長いスコープを口や鼻から挿入し、食道、胃、十二指腸を直接観察する検査です。

### <精密検査の方法>

- ・胃内視鏡検査  
X線検査後の精密検査は、胃内視鏡検査を行います。検査で疑わしい部位が見つければ生検(組織を採取し、悪性かどうか調べる検査)を行う場合があります。

## 大腸がん検診(1年に1回)

### <検診の方法>

- ・便潜血検査  
便に混じった血液を検出する検査です。2日分の便を採取し、冷所に保存しましょう。がんやポリープなどの大腸疾患があると大腸内に出血することがあり、その血液を検出することが目的です。出血は通常は微量で目に見えません。※月経(生理)中は避けて検査を受けてください。

### <精密検査の方法>

- ・全大腸内視鏡検査  
肛門から内視鏡を挿入して大腸を調べます。必要に応じて組織を採取して診断します。
- ・内視鏡と大腸のX線検査の併用法  
内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。

## 肺がん検診(1年に1回)

### <検診の方法>

- ・X線検査  
胸のX線撮影を行います。放射線被ばくによる健康被害はほとんどありません。
- ・痰の検査  
対象者は50歳以上、喫煙指数が600以上の人です。痰に含まれる細胞や成分を測定してがん細胞の有無を調べます。

### <精密検査の方法>

- ・CT検査  
X線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し、詳しく調べます。
- ・気管支鏡検査  
気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。

### 喫煙と肺

たばこを吸わない人に比べて、たばこを吸う人は日本人男性では約5倍、女性では約4倍肺がんで亡くなるリスクが高くなり、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすいという研究結果がでています。たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人(受動喫煙者)の肺がんのリスクもあげてしまいます。禁煙によってご自身と周りの人の健康な肺を守りましょう。

## 乳がん検診(2年に1回)

### <検診の方法>

- ・マンモグラフィー  
小さいこりや石灰化を見つけることができます。乳房を片方ずつプラスチック版で挟んで撮影します。乳房が圧迫されるため痛みを感じることもありますが、圧迫時間は数十秒ほどです。また、放射線被ばくによる健康被害はほとんどありません。

### <精密検査の方法>

- ・マンモグラフィーの追加検査  
疑わしい部位を多方面から詳しく観察します。
- ・超音波検査  
超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。
- ・細胞診、組織診  
疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか判断します。

## 子宮頸がん検診

### <検診の方法>

- ・細胞診(20歳~28歳):2年に1回  
子宮頸部を専用器具で擦り、細胞を取って、異常な細胞の有無を調べます。
- ・HPV単独法(30歳~60歳):5年に1回  
HPV(ヒトパピローマウイルス)検査を実施し、陽性の場合、同一検体を用いて細胞診を実施します。

### <精密検査の方法>

- ・コルポスコープ検査  
コルポスコープ(膣拡大鏡)を使って子宮頸部を詳しく観察します。異常な部位が見つければ、組織を採取し、悪性かどうか診断します。